

協 定 書 の 実 施 状 況 報 告 書

(第57報)

令和8年7月

株式会社神戸製鋼所 加古川製鉄所
関西熱化学株式会社 加古川工場

目 次

1. 大気環境保全		1
2. 水質環境保全		7
3. 騒音防止対策		11
4. 悪臭防止対策		13
5. 副産物の再資源化		14
6. 情報公開		15

協定書の実施状況報告書(第57報)

令和7年度における環境保全協定書の実施状況を、第57報としてとりまとめましたので、ご報告いたします。

1. 大気環境保全

(1) 硫黄酸化物の排出状況

表－1および図－1に、昭和52年度以降の硫黄酸化物時間排出量の各年度における平均値と最大値を示します。

令和7年度において、協定値を遵守していることを確認しました。

表－1 硫黄酸化物時間排出量の各年度実績

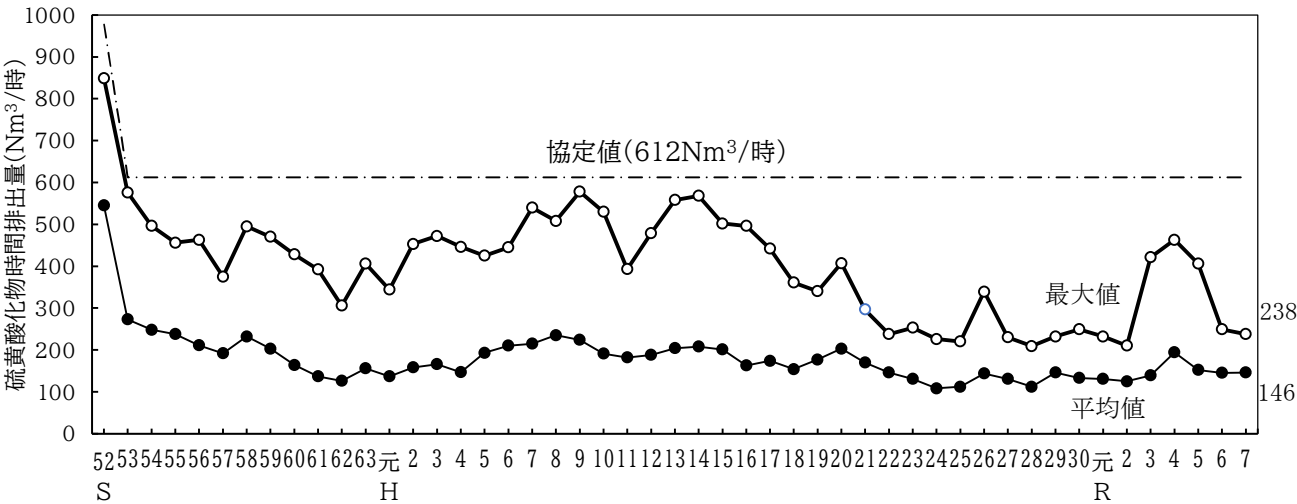
(単位：Nm³/時)

年 度		昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3
実 績	平均値	545	273	248	238	211	192	232	203	164	137	126	156	137	158	166
	最大値	849	576	496	456	463	375	495	470	428	392	306	406	344	453	472

年 度		平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18
実 績	平均値	147	193	210	215	235	224	191	182	188	204	208	204	165	174	154
	最大値	446	425	445	540	508	578	530	393	479	558	568	502	496	442	361

年 度		平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3
実 績	平均値	177	203	170	146	131	108	112	144	131	112	146	133	131	125	139
	最大値	340	407	296	238	253	226	220	339	230	209	232	249	232	210	421

年 度		令和4	令和5	令和6	令和7
実 績	平均値	194	152	145	146
	最大値	463	406	249	238



(2)窒素酸化物の排出状況

表－2および図－2に、昭和52年度以降の窒素酸化物時間排出量の各年度における平均値と最大値を示します。

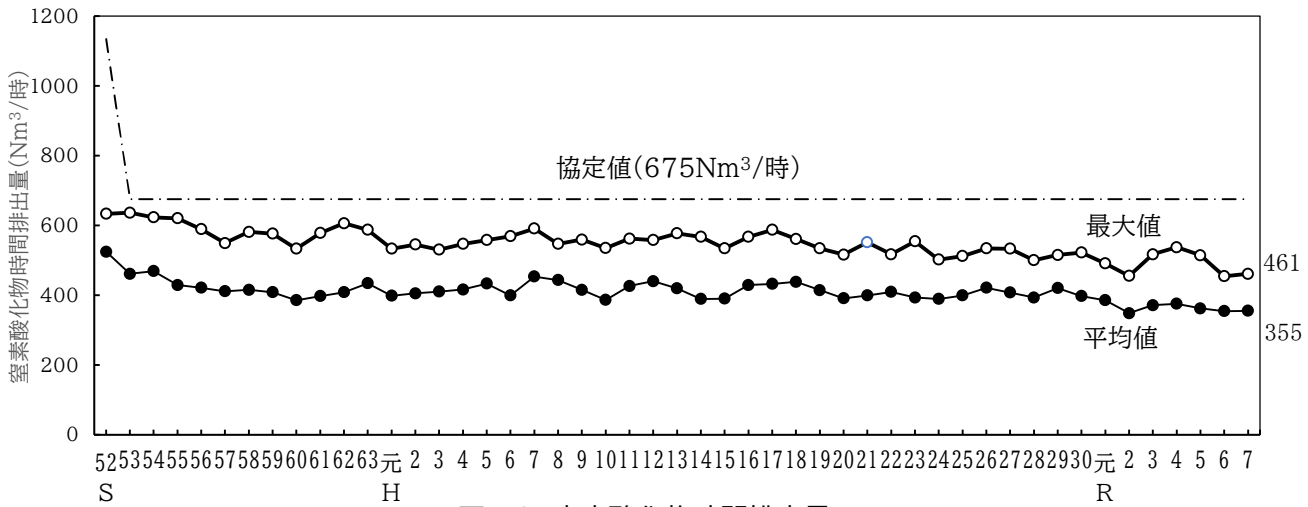
令和7年度において、協定値を遵守していることを確認しました。

年 度		昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3
実 績	平均値	524	461	469	429	421	411	415	408	385	397	408	434	398	405	410
	最大値	633	636	623	620	589	549	581	576	533	578	606	587	533	545	530

年 度		平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18
実 績	平均値	416	433	399	453	443	415	386	426	440	419	389	393	430	432	438
	最大値	547	558	569	591	547	559	535	562	558	577	567	534	567	587	561

年 度		平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3
実 績	平均値	414	391	399	409	393	389	399	421	407	393	420	397	385	348	371
	最大値	534	516	551	517	554	502	512	534	533	500	515	522	491	455	517

年 度		令和4	令和5	令和6	令和7
実 績	平均値	375	362	354	355
	最大値	537	514	454	461



(3)ばいじんの排出状況

表－3および図－3に、昭和52年度以降のばいじん時間排出量の各年度における平均値と最大値を示します。

令和7年度において、協定値を遵守していることを確認しました。

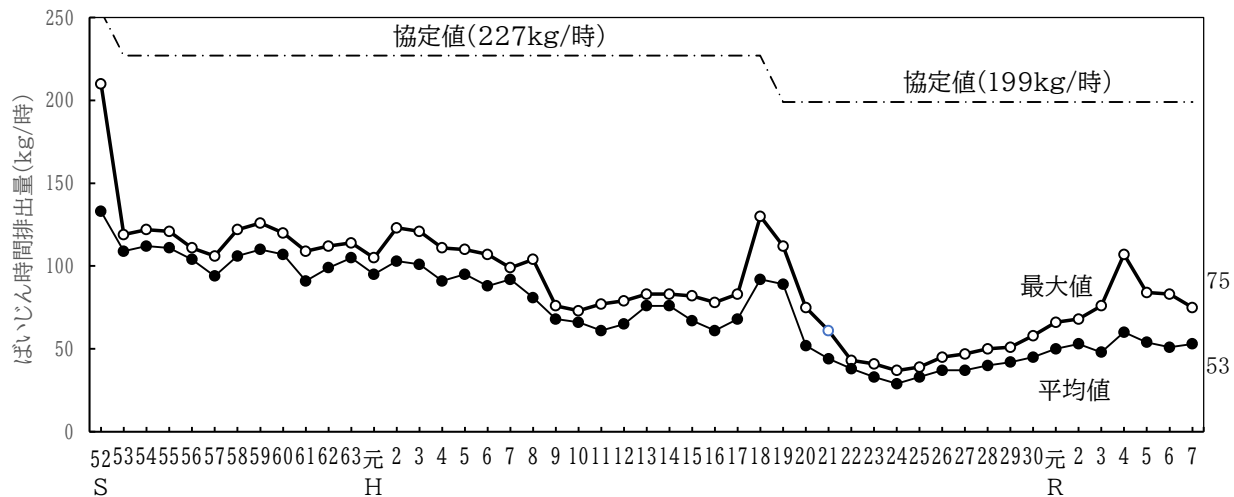
表－3 ばいじん時間排出量の各年度実績 (単位:kg/時)

年 度		昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	昭和	平成	平成	平成
項 目		52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3
実 績	平均値	133	109	112	111	104	94	106	110	107	91	99	105	95	103	101
	最大値	210	119	122	121	111	106	122	126	120	109	112	114	105	123	121

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
項 目		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
実 績	平均値	91	95	88	92	81	68	66	61	65	76	76	67	61	68	92
	最大値	111	110	107	99	104	76	73	77	79	83	83	82	78	83	130

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	令和	令和	令和
項 目		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3
実 績	平均値	89	52	44	38	33	29	33	37	37	40	42	45	50	53	48
	最大値	112	75	61	43	41	37	39	45	47	50	51	58	66	68	76

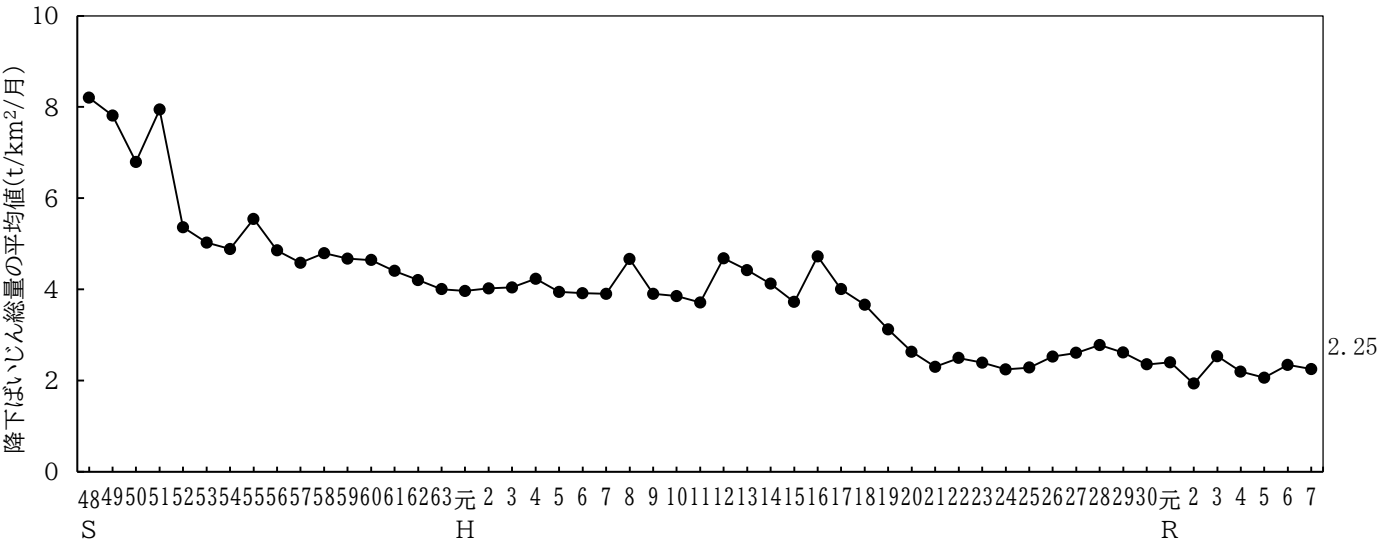
年 度		令和	令和	令和	平成
項 目		4	5	6	7
実 績	平均値	60	54	51	53
	最大値	107	84	83	75



図－3 ばいじん時間排出量

(4)降下ばいじん量

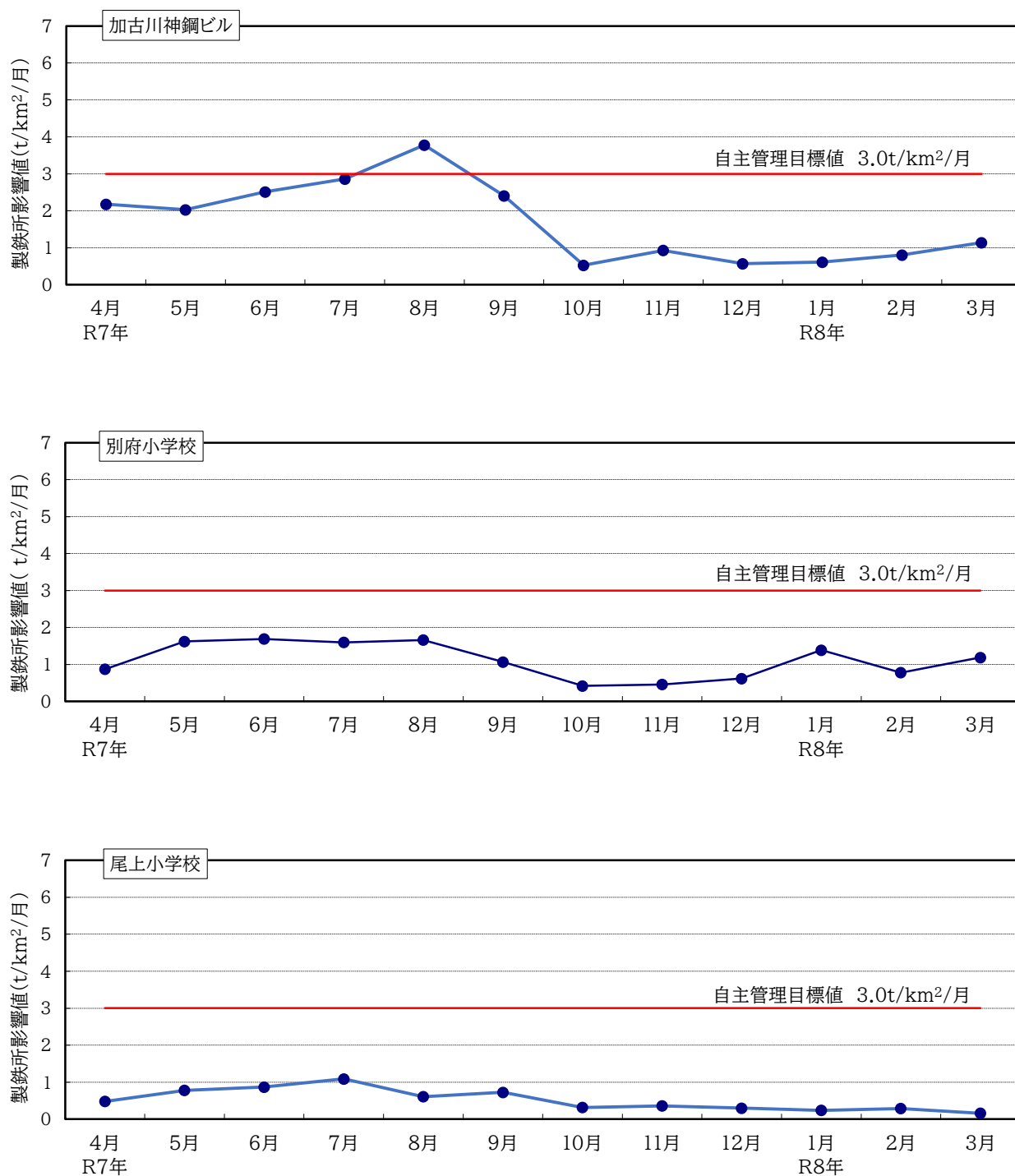
図－4に、昭和48年度以降の周辺地域(浜の宮、別府、播磨)における各年度の降下ばいじん総量(神鋼測定)の平均値を示します。



図－4 周辺地域(浜の宮、別府、播磨)における降下ばいじん総量の平均値

平成20年4月より降下ばいじん対策の効果を確認するため、自主的な管理目標値 $3.0\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ （製鉄所影響値）を設定し、管理しています。対象測定地点である加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の令和7年度の製鉄所影響値（加古川市測定）を図－5に示します。

※台風相当の強風影響分（明石气象台で南風風速 $10\text{m}/\text{s}$ 以上）を除いています。



図－5 製鉄所影響値(加古川市測定)

(5)年間排出量

表－4に、平成19年度以降のばい煙の各年度における年間排出量を示します。

令和7年度において、協定値を遵守していることを確認しました。

表－4 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの年間排出量実績

(単位:t/年)

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成
項 目		19	20	21	22	23	24	25
硫黄酸化物	協定値	4,525	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810
	実 績	2,386	5,444	4,460	3,823	3,490	2,878	2,971
窒素酸化物	協定値	5,414	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540
	実 績	4,094	7,495	7,731	7,840	7,477	7,495	8,019
ばいじん	協定値	586	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140
	実 績	352	410	328	291	241	211	237

年 度		平成	平成	平成	平成	平成	令和	令和
項 目		26	27	28	29	30	元	2
硫黄酸化物	協定値	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810
	実 績	3,857	3,424	2,894	3,783	3,551	3,461	3,256
窒素酸化物	協定値	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540
	実 績	8,533	8,085	7,695	8,439	7,927	7,606	6,655
ばいじん	協定値	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140
	実 績	275	275	298	311	349	386	375

年 度		令和	令和	令和	令和	令和
項 目		3	4	5	6	7
硫黄酸化物	協定値	8,810	8,810	8,810	8,810	8,810
	実 績	3,543	4,945	3,830	3,645	3,595
窒素酸化物	協定値	10,540	10,540	10,540	10,540	10,540
	実 績	7,235	7,264	6,951	6,618	6,661
ばいじん	協定値	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140
	実 績	337	444	405	384	397

平成19年9月26日に改定した環境保全協定において、新たに年間排出量が規定されました。

平成19年度については、年間排出量が規定されてから年度末まで一年に満たないことから、年間排出量に対象日数比率(平成19年9月26日～平成20年3月31日)を乗じた値が協定値となります。

2. 水質環境保全

各工場で使用した水は、処理・循環利用することにより、汚濁負荷の削減を図っております。製鉄所全体としては、約97%の水を循環利用しており、各工場には水処理設備を設置し、設備の維持管理、水質管理を徹底し、水質汚濁防止に努めております。表－5～8および図－6～9に協定に定められた各種汚濁負荷量の平均値と最大値を示します。

令和7年度において、水質に関する協定値を遵守していることを確認しました。

表－5 COD負荷量の実績

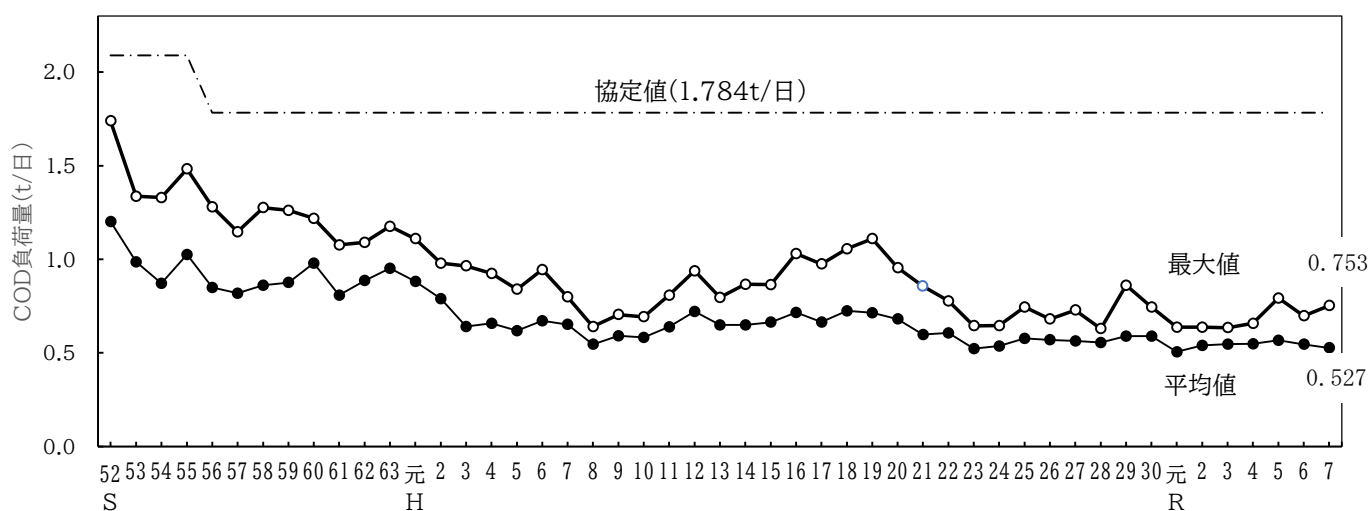
(単位:t/日)

年 度		昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2
実 績	平均値	1.202	0.986	0.872	1.025	0.849	0.819	0.861	0.876	0.980	0.809	0.886	0.952	0.882	0.790
	最大値	1.740	1.337	1.330	1.483	1.280	1.147	1.276	1.262	1.219	1.077	1.091	1.176	1.110	0.980

年 度		平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
実 績	平均値	0.641	0.658	0.618	0.672	0.652	0.546	0.591	0.582	0.639	0.721	0.649	0.649	0.664	0.716
	最大値	0.965	0.925	0.840	0.945	0.799	0.641	0.705	0.693	0.808	0.938	0.797	0.866	0.865	1.031

年 度		平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30
実 績	平均値	0.665	0.724	0.715	0.681	0.598	0.607	0.523	0.536	0.578	0.570	0.564	0.555	0.589	0.589
	最大値	0.975	1.056	1.110	0.955	0.857	0.777	0.645	0.646	0.745	0.681	0.729	0.630	0.862	0.745

年 度		令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
実 績	平均値	0.506	0.540	0.547	0.549	0.567	0.546	0.527
	最大値	0.637	0.638	0.635	0.658	0.793	0.698	0.753



図－6 COD負荷量

表-6 SS負荷量の実績

(単位:t/日)

年 度 項 目		昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58	昭和 59	昭和 60	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成 元	平成 2
実 績	平均値	0.991	0.734	0.645	0.640	0.454	0.450	0.467	0.417	0.464	0.386	0.514	0.514	0.457	0.372
	最大値	1.790	1.087	1.039	1.026	0.612	0.713	0.676	0.693	0.665	0.593	0.682	0.635	0.742	0.771

年 度 項 目		平成 3	平成 4	平成 5	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16
実 績	平均値	0.307	0.299	0.295	0.393	0.407	0.368	0.367	0.361	0.460	0.461	0.285	0.218	0.359	0.264
	最大値	0.682	0.644	0.622	0.671	0.728	0.686	0.634	0.600	0.834	0.696	0.616	0.440	0.628	0.480

年 度 項 目		平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
実 績	平均値	0.262	0.291	0.261	0.203	0.132	0.121	0.078	0.090	0.095	0.114	0.112	0.077	0.088	0.094
	最大値	0.649	0.653	0.494	0.607	0.383	0.372	0.115	0.172	0.164	0.202	0.272	0.115	0.140	0.132

年 度 項 目		令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
実 績	平均値	0.072	0.072	0.069	0.076	0.078	0.093	0.089
	最大値	0.116	0.119	0.105	0.120	0.143	0.185	0.246

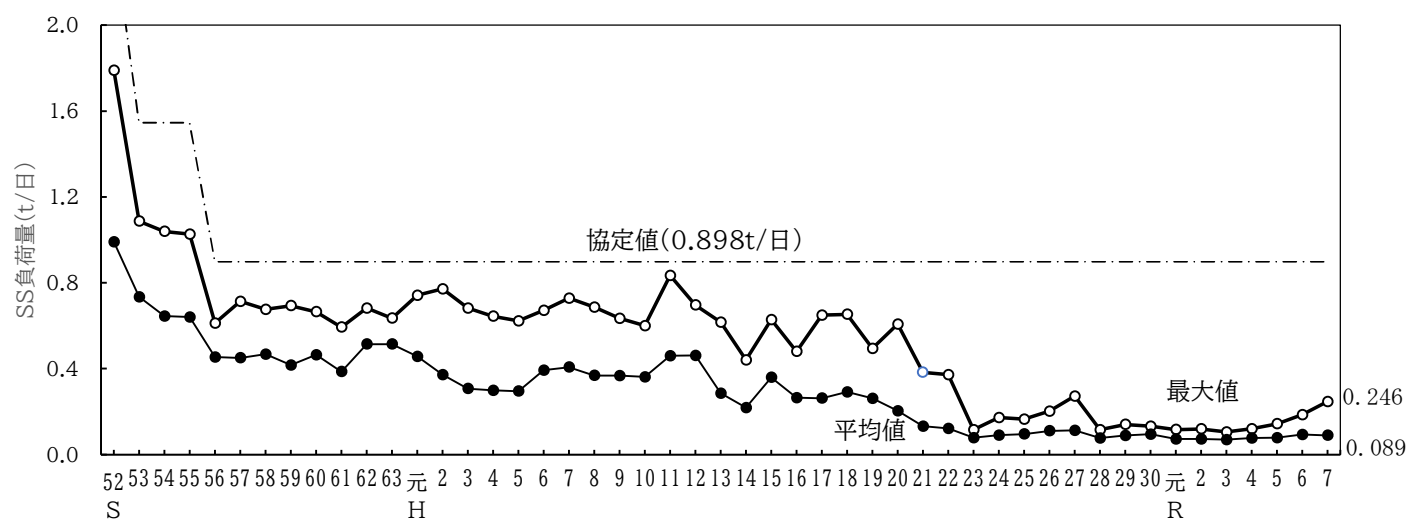


図-7 SS負荷量

表-7 ノルマルヘキサン抽出物質負荷量の実績

(単位：t/日)

年度 項目		昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58	昭和 59	昭和 60	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成 元	平成 2
実績	平均値	0.137	0.088	0.093	0.065	0.047	0.055	0.069	0.067	0.058	0.049	0.049	0.057	0.056	0.056
	最大値	0.284	0.170	0.156	0.151	0.066	0.116	0.119	0.101	0.093	0.070	0.071	0.099	0.097	0.093

年度 項目		平成 3	平成 4	平成 5	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16
実績	平均値	0.049	0.048	0.042	0.041	0.049	0.040	0.044	0.046	0.046	0.048	0.045	0.041	0.043	0.039
	最大値	0.090	0.068	0.052	0.054	0.059	0.049	0.057	0.054	0.056	0.061	0.051	0.050	0.052	0.046

年度 項目		平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
実績	平均値	0.038	0.026	0.021	0.019	0.018	0.020	0.019	0.018	0.018	0.020	0.019	0.019	0.019	0.019
	最大値	0.043	0.051	0.025	0.024	0.022	0.023	0.020	0.020	0.021	0.021	0.021	0.022	0.021	0.021

年度 項目		令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
実績	平均値	0.020	0.019	0.020	0.020	0.020	0.019	0.019
	最大値	0.021	0.021	0.022	0.022	0.022	0.021	0.023

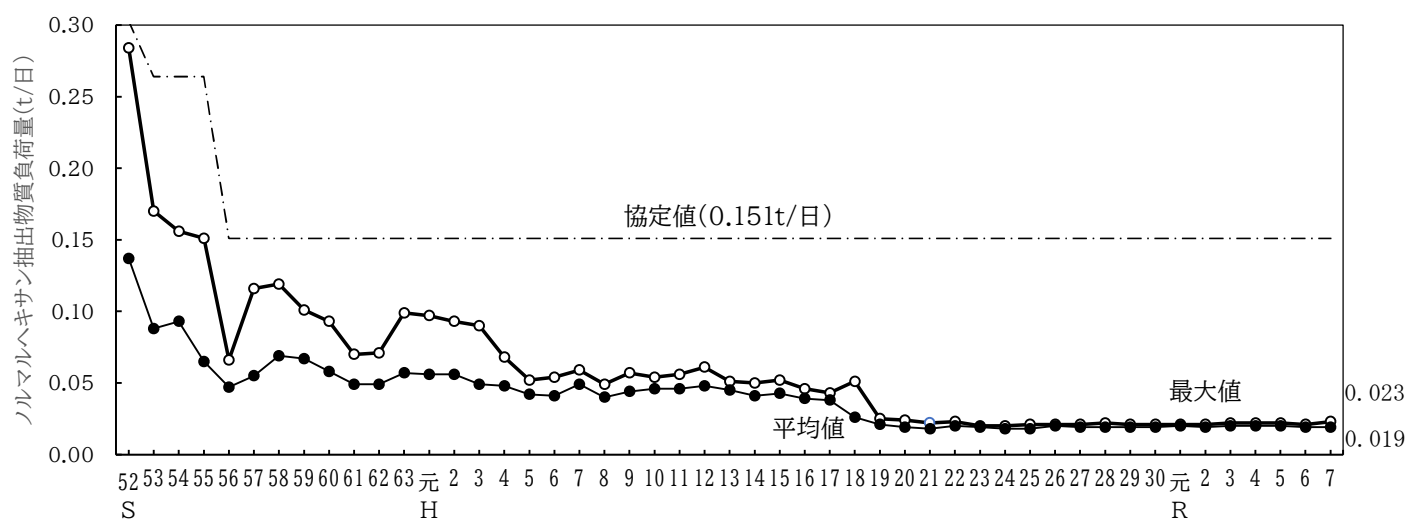


図-8 ノルマルヘキサン抽出物質負荷量

表－8 溶解性鉄負荷量の実績

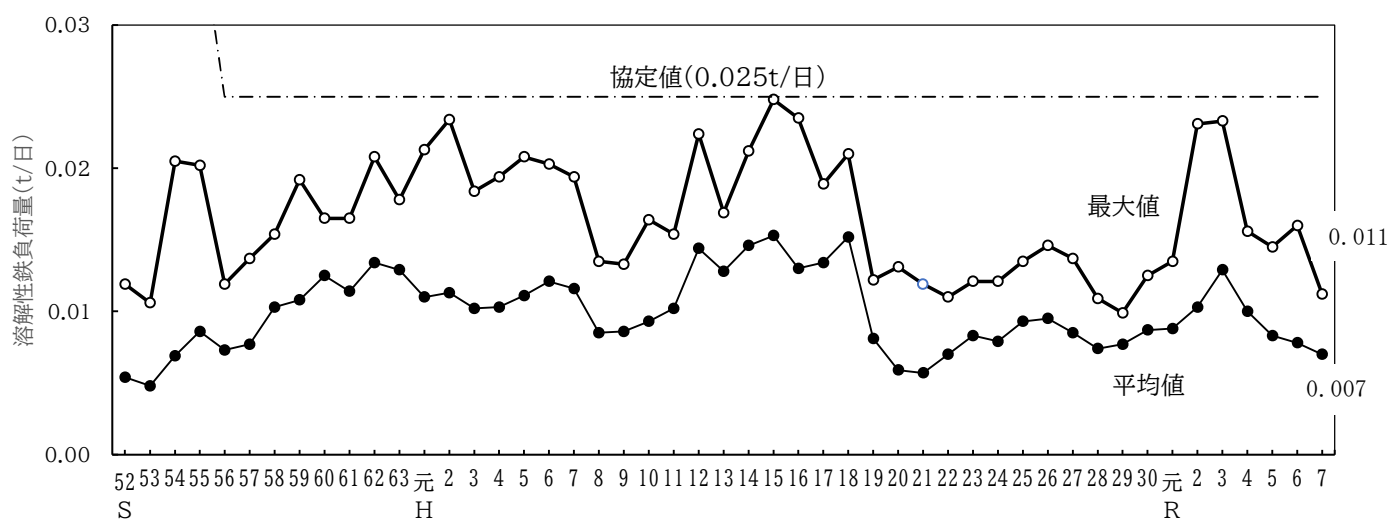
(単位：t/日)

年 度 項 目		昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58	昭和 59	昭和 60	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成 元	平成 2
実 績	平均値	0.005	0.005	0.007	0.009	0.007	0.008	0.010	0.011	0.013	0.011	0.013	0.013	0.011	0.011
	最大値	0.012	0.011	0.021	0.020	0.012	0.014	0.015	0.019	0.017	0.017	0.021	0.018	0.021	0.023

年 度 項 目		平成 3	平成 4	平成 5	平成 6	平成 7	平成 8	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16
実 績	平均値	0.010	0.010	0.011	0.012	0.012	0.009	0.009	0.009	0.010	0.014	0.013	0.015	0.015	0.013
	最大値	0.018	0.019	0.021	0.020	0.019	0.014	0.013	0.016	0.015	0.022	0.017	0.021	0.025	0.024

年 度 項 目		平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
実 績	平均値	0.013	0.015	0.008	0.006	0.006	0.007	0.008	0.008	0.009	0.010	0.009	0.007	0.008	0.009
	最大値	0.019	0.021	0.012	0.013	0.012	0.011	0.012	0.012	0.014	0.015	0.014	0.011	0.010	0.013

年 度 項 目		令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
実 績	平均値	0.009	0.010	0.013	0.010	0.008	0.008	0.007
	最大値	0.014	0.023	0.023	0.016	0.015	0.016	0.011



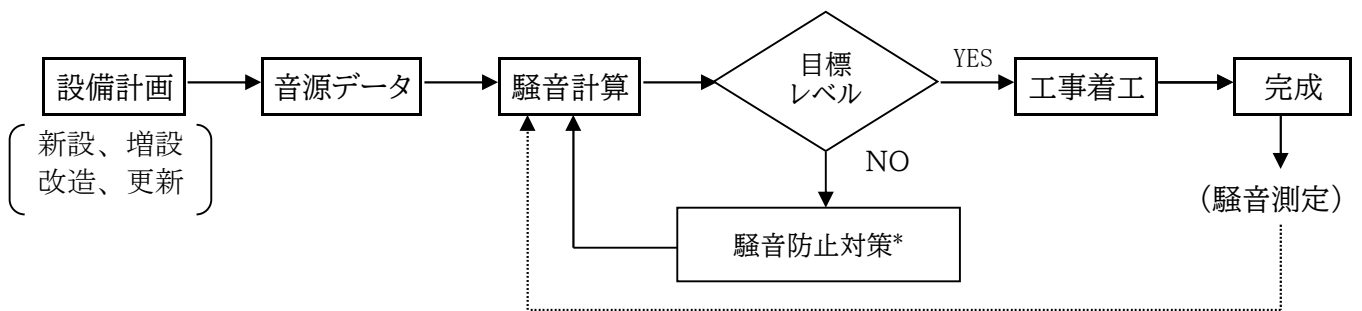
図－9 溶解性鉄負荷量

3. 騒音防止対策

騒音については、主として送風機、圧縮機、破碎機等の騒音発生源を中心に対策を実施しています。

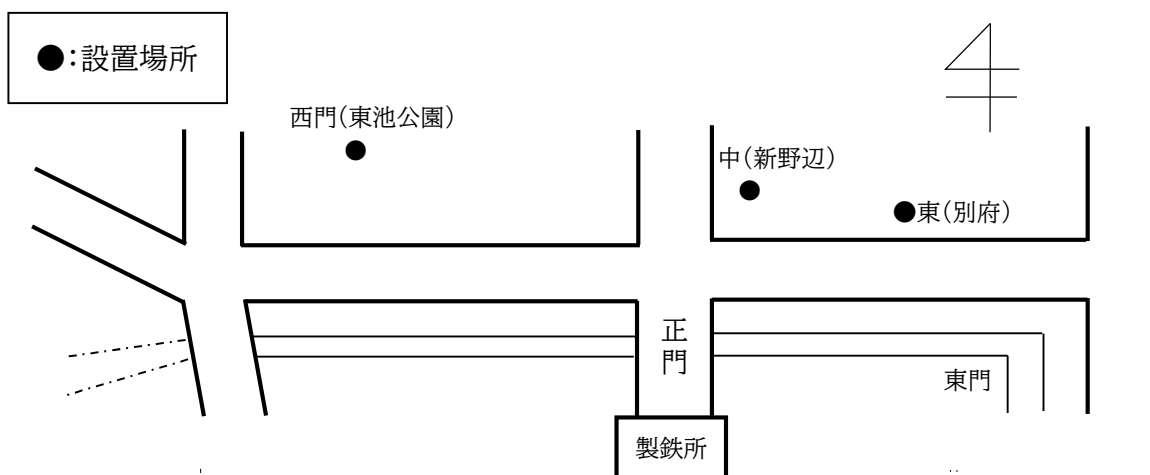
設備の新設・増設・改造並びに更新に際しては、設備計画段階から騒音防止対策を織り込み、騒音の低減に努めています。

《騒音防止対策の検討フロー》



*騒音防止対策例：サイレンサー（膨張型，吸音型，セル型），防音ラギング，防音建屋，防音ボックス，防音壁，低騒音型設備の導入およびこれらの組合せ等。

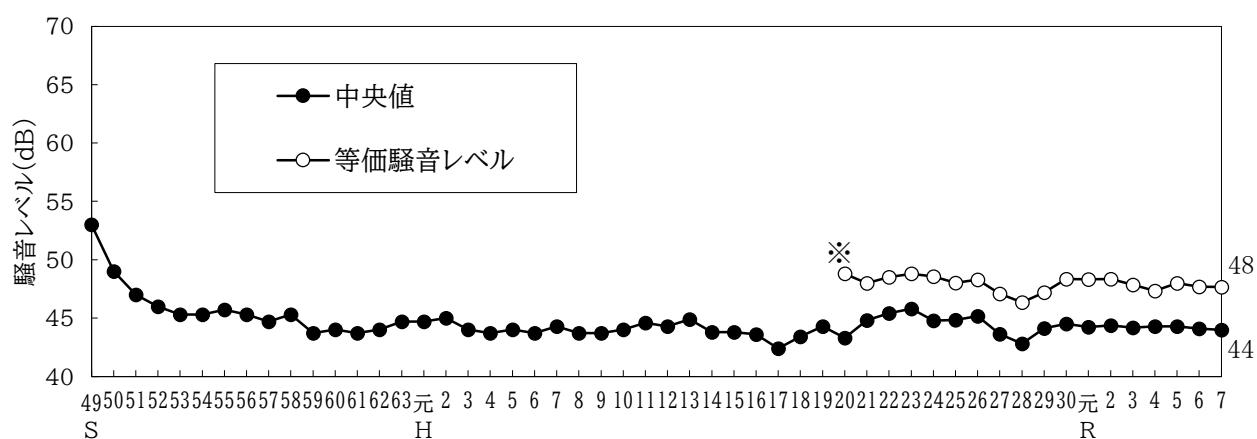
騒音発生状況を確認するため、製鉄所周辺3か所に騒音自動測定装置を設置しています。



表－9および図－10に令和7年度の夜間(23時～翌5時)における騒音レベルの実績を示します。

表－9 騒音レベルの実績

測定期間	測定場所	等価騒音レベル(平均値)	60dB を超えた頻度
令和7年4月～ 令和8年3月	東(別 府)	53dB	0.5%
	中(新野辺)	48dB	1.1%
	西門(東池公園)	42dB	0.0%



図－10 住居地域(東、中、西門)における騒音レベルの平均値(23時～翌5時)

※協定改定にあわせ、平成20年度から騒音レベルの測定方法を中央値から等価騒音レベルに変更しました。

4. 悪臭防止対策

令和7年度の敷地境界における悪臭物質濃度の最小値と最大値を表－10に示します。いずれの悪臭物質も悪臭防止法の規制値(＝協定値)を遵守していることを確認しました。

表－10 悪臭物質濃度の実績

(単位：ppm)

基準値(一般地域)		アンモニア	硫化水素
		1	0.02
測定結果	令和7年4月～	最小：不検出	最小：不検出
	令和8年3月	最大：0.05	最大：0.002

5. 副産物の再資源化

製鉄所で発生するスラグ等の副産物について、所内および所外での用途拡大や高付加価値化を推進し、再資源化に取り組んでいます。

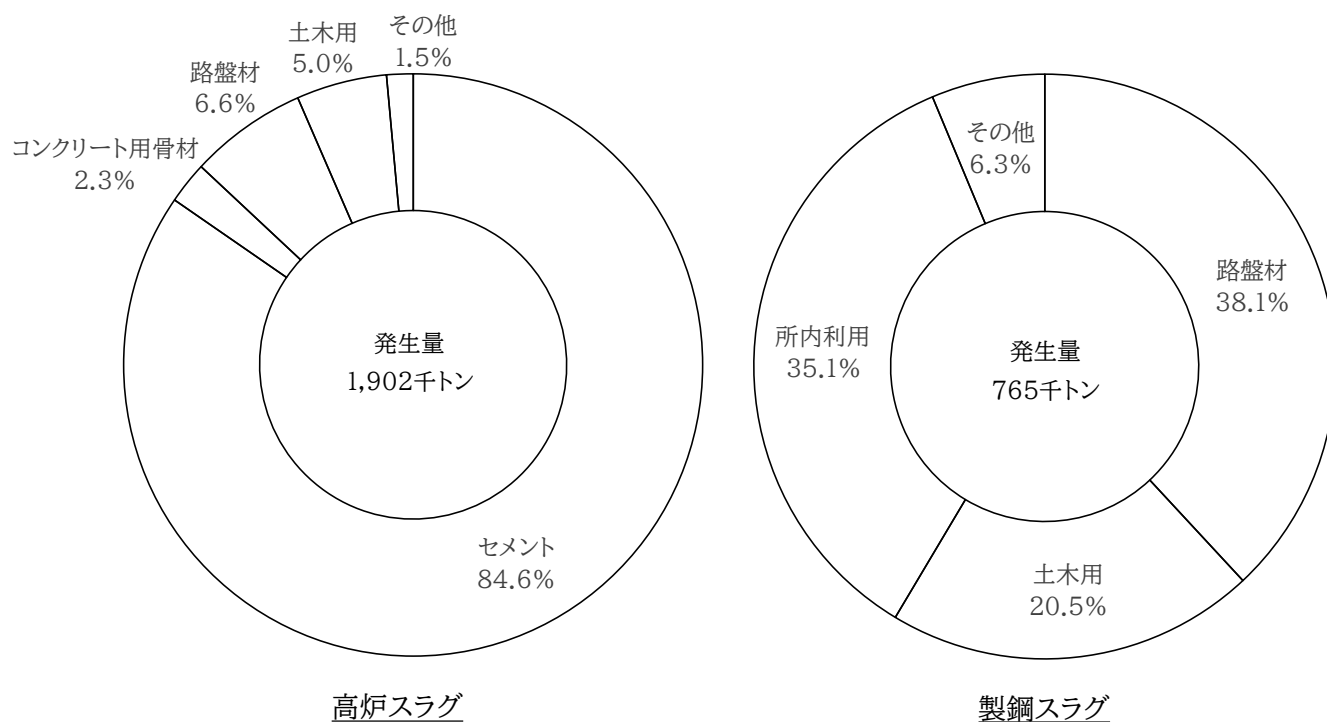
(1) 高炉スラグ

セメント原料をはじめ、コンクリート用細骨材や道路用路盤材として再資源化しています。特に製鉄所では高炉セメントの原料となる高炉水砕スラグの製造を促進しています。高炉セメントは普通セメントと比較し、セメント製造時のCO₂排出量を大幅に低減でき、建設業の低炭素化に貢献しています。

(2) 製鋼スラグ

所内での利用を促進するとともに、所外でも道路用路盤材や土木用材として利用されています。主として道路用路盤材に使用する際に課題となる膨張安定性を確保するための蒸気エージング処理の実施等、品質管理を徹底し、再資源化しています。

図－11に令和7年度の高炉スラグと製鋼スラグの発生量と再資源化の用途を示します。



図－11 高炉スラグ、製鋼スラグの発生量と用途

6. 情報公開

(1) 現地説明会

令和7年5月25日に現地説明会を開催し、7名の方にご参加いただきました。粉じん対策等の環境保全の取り組みを説明した後、実際に現地をご見学いただきました。

(2) 環境報告書

令和7年5月に2024年度下半期、11月に2025年度上半期の環境報告書を発行し、ご希望の皆様に配布いたしました。

(3) 公開モニタ

ばい煙と降下ばいじんに関する測定結果およびお知らせを公開しています。